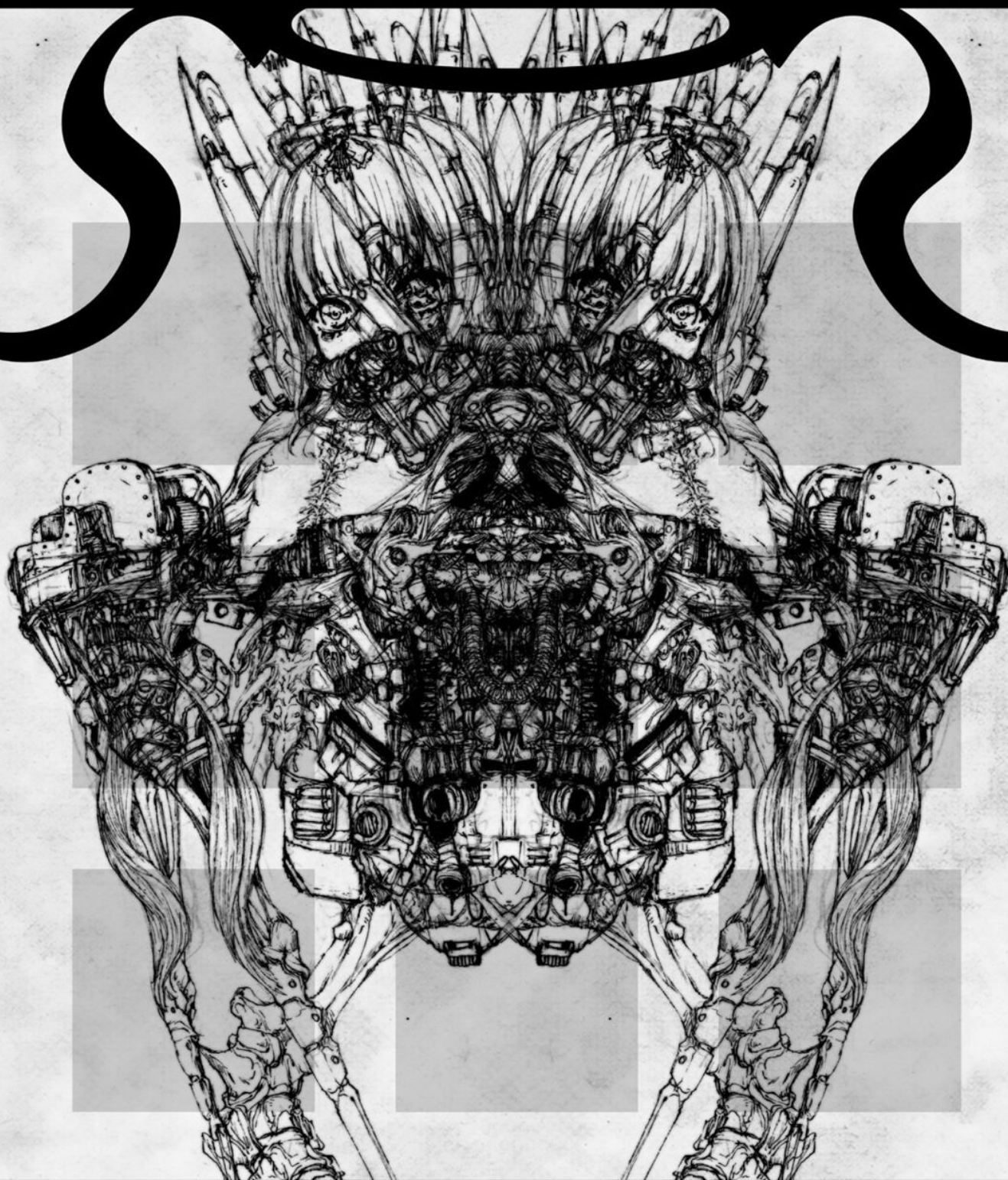




[NECROTECH ENGINEERING]

Mature
Content

ネクロテック・エンジニアリング



掲載物一覧

■屑肉の迎撃者

■閾値のドラゴン

□血塗れ人鳥Ⅱ

□甲殻の乱暴者

■漿の塔の狩猟者

■古びた運搬者

□クスの鋳術師

□マンティコアの慰みもの

■鍍金森の人馬

■死せざる毒

□惨禍を見つめるもの

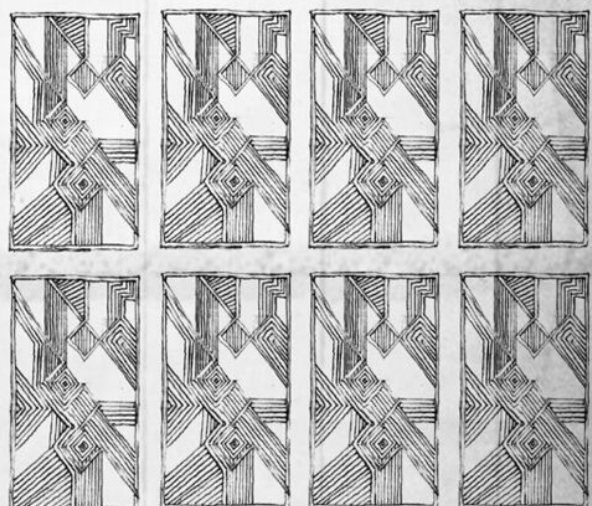
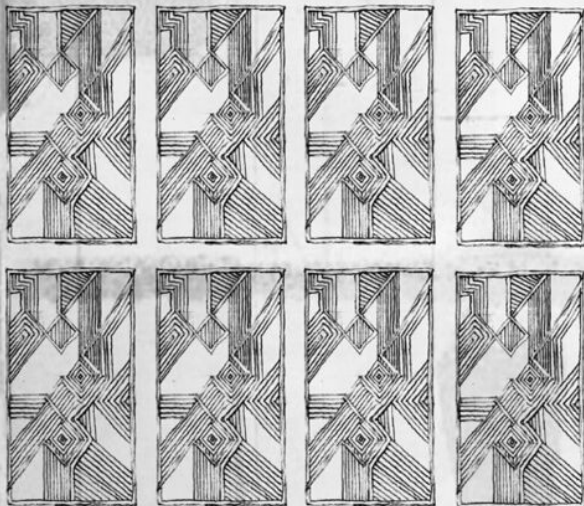
□大鰐通りの人攫い

■鋭き眼の気球

■大鰐通りの踏破者

□閾値のデーモン

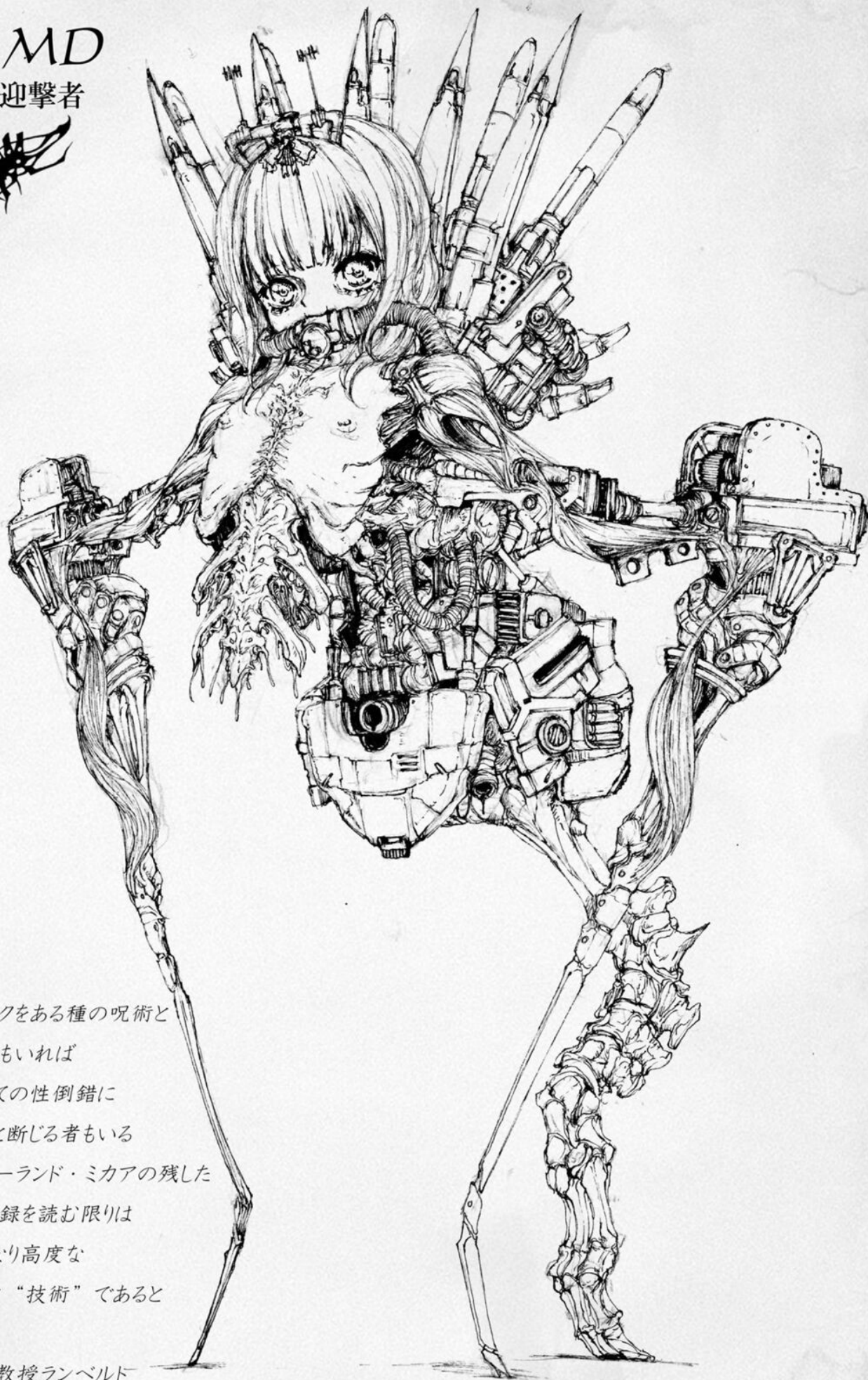
□よた姫様



Wtóra Księga Rodzaju

Junk MD

屑肉の迎撃者

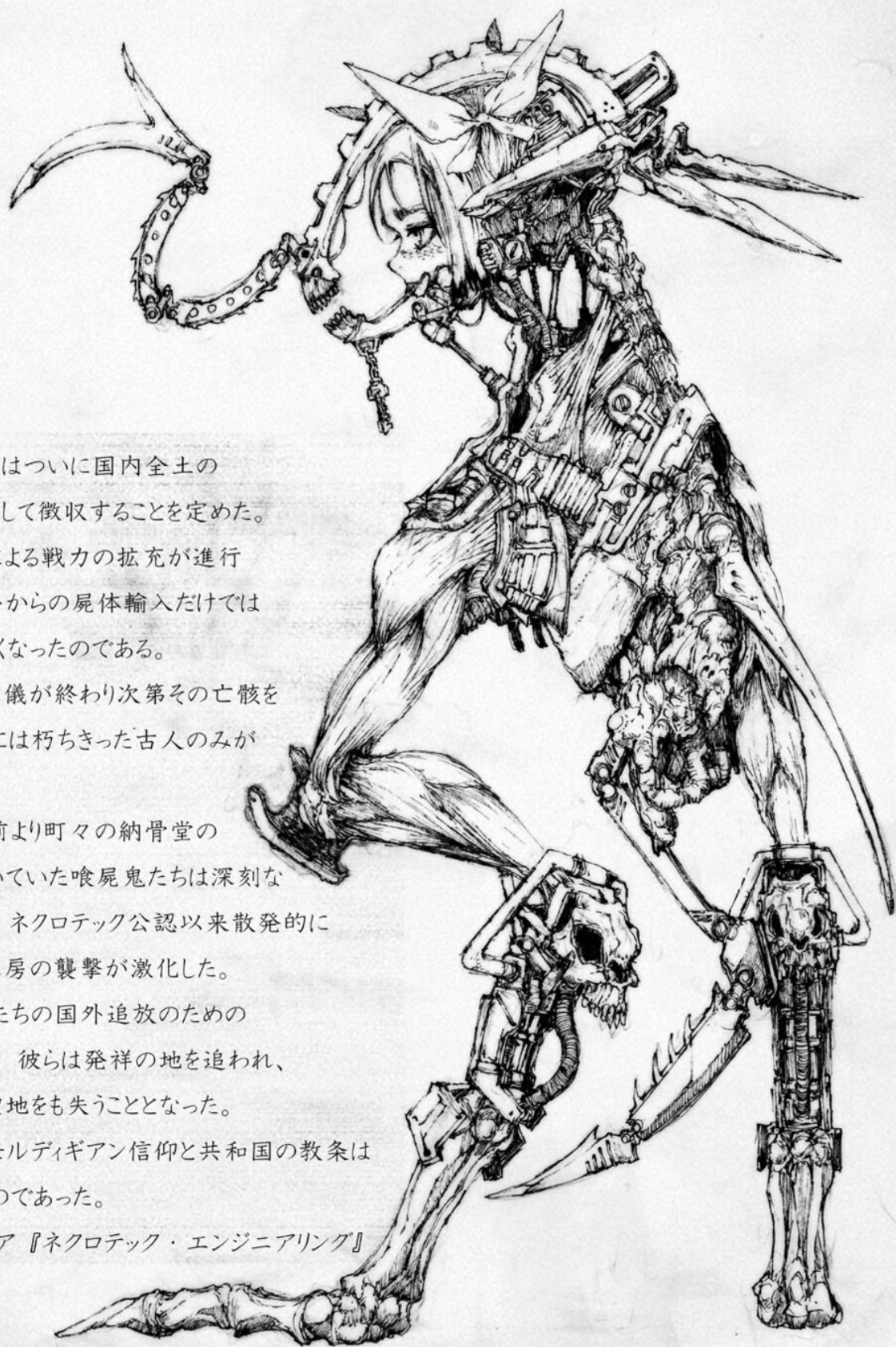


ネクロテックをある種の呪術と
見做す者もいれば
国を挙げての性倒錯に
過ぎないと断じる者もいる
しかしファーランド・ミカアの残した
膨大な記録を読む限りは
それはかなり高度な
第九期的“技術”であると
言える

—蒼霊教授ランベルト

Sanguine mk-2

血塗れ人鳥Ⅱ



1866年、共和国はついに国内全土の屍体を国の財産として徴収することを定めた。

ネクロテック兵器による戦力の拡充が進行するにつれ、国外からの屍体輸入だけでは需要を賄いきれなくなったのである。

すべての国民は葬儀が終わり次第その亡骸を回収され、墓地には朽ちきった古人のみが残された。

これにより建国以前より町々の納骨堂の地下に集落を築いていた喰屍鬼たちは深刻な飢餓状態に陥り、ネクロテック公認以来散発的に続いていた国営工房の襲撃が激化した。

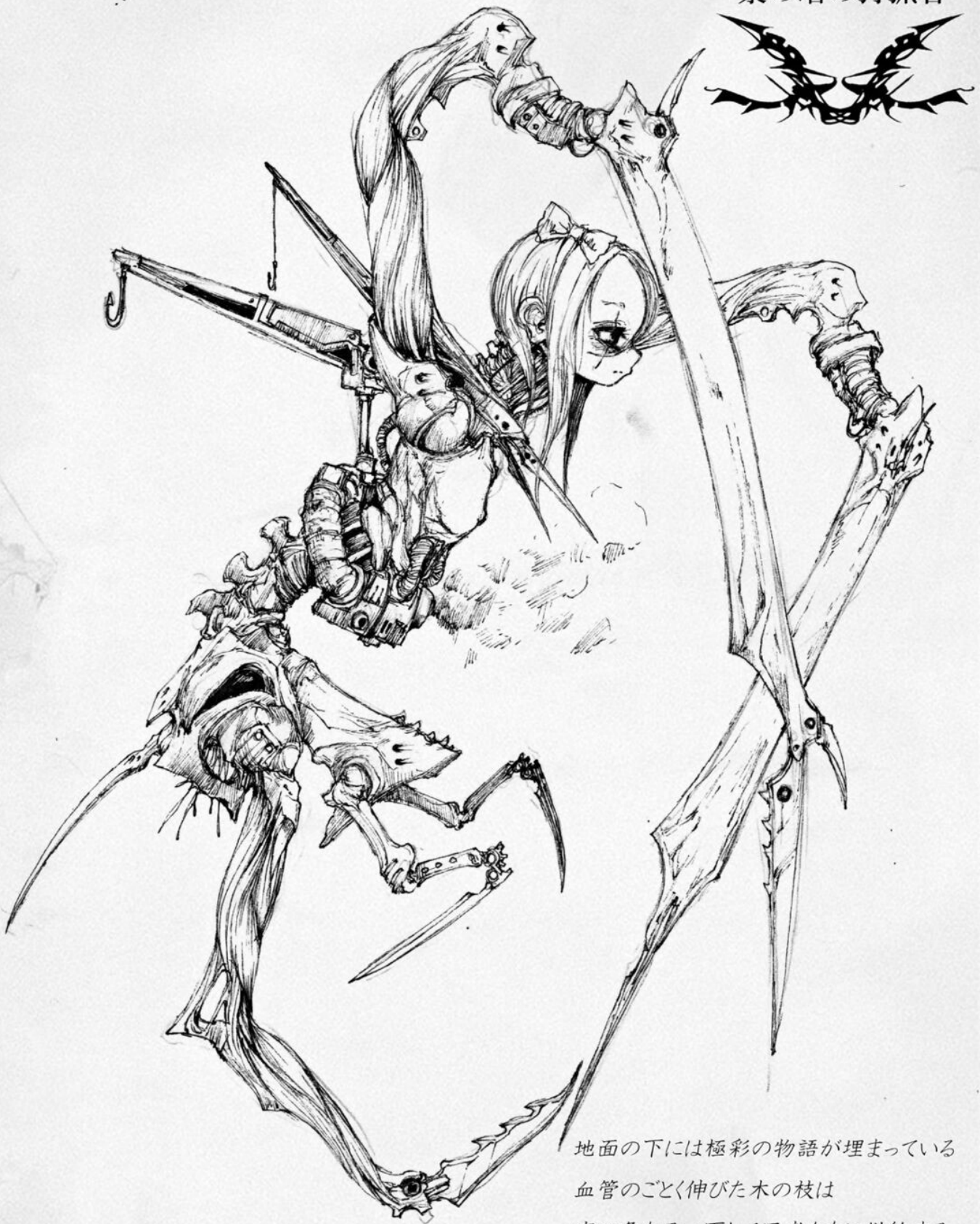
共和国は喰屍鬼たちの国外追放のための専門機関を設立、彼らは発祥の地を追われ、モルディギアの聖地をも失うこととなった。

そもそも正統派のモルディギア信仰と共和国の教条は全く相容れないものであった。

ファーランド・ミカア『ネクロテック・エンジニアリング』

Stalker Of Plasm-tower

漿の塔の狩獵者



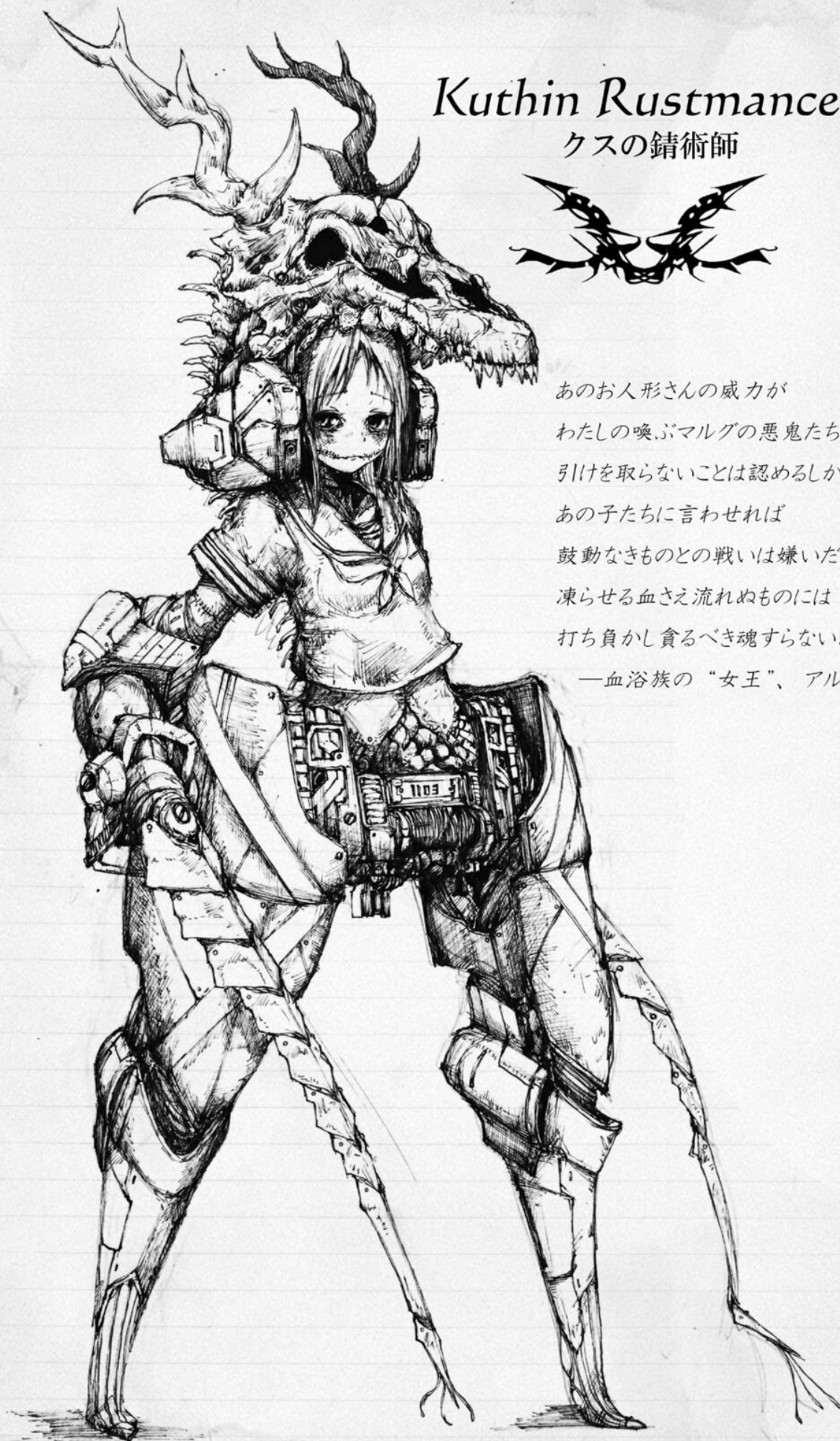
地面の下には極彩の物語が埋まっている
血管のごとく伸びた木の枝は
空の色を吸い下して死者たちに供給する
それが我々の用いる絵の具のひとつなのだ
—マスターネクロテック、カッシュス・デラモルテ

Kuthin Rustmancer

クスの錆術師

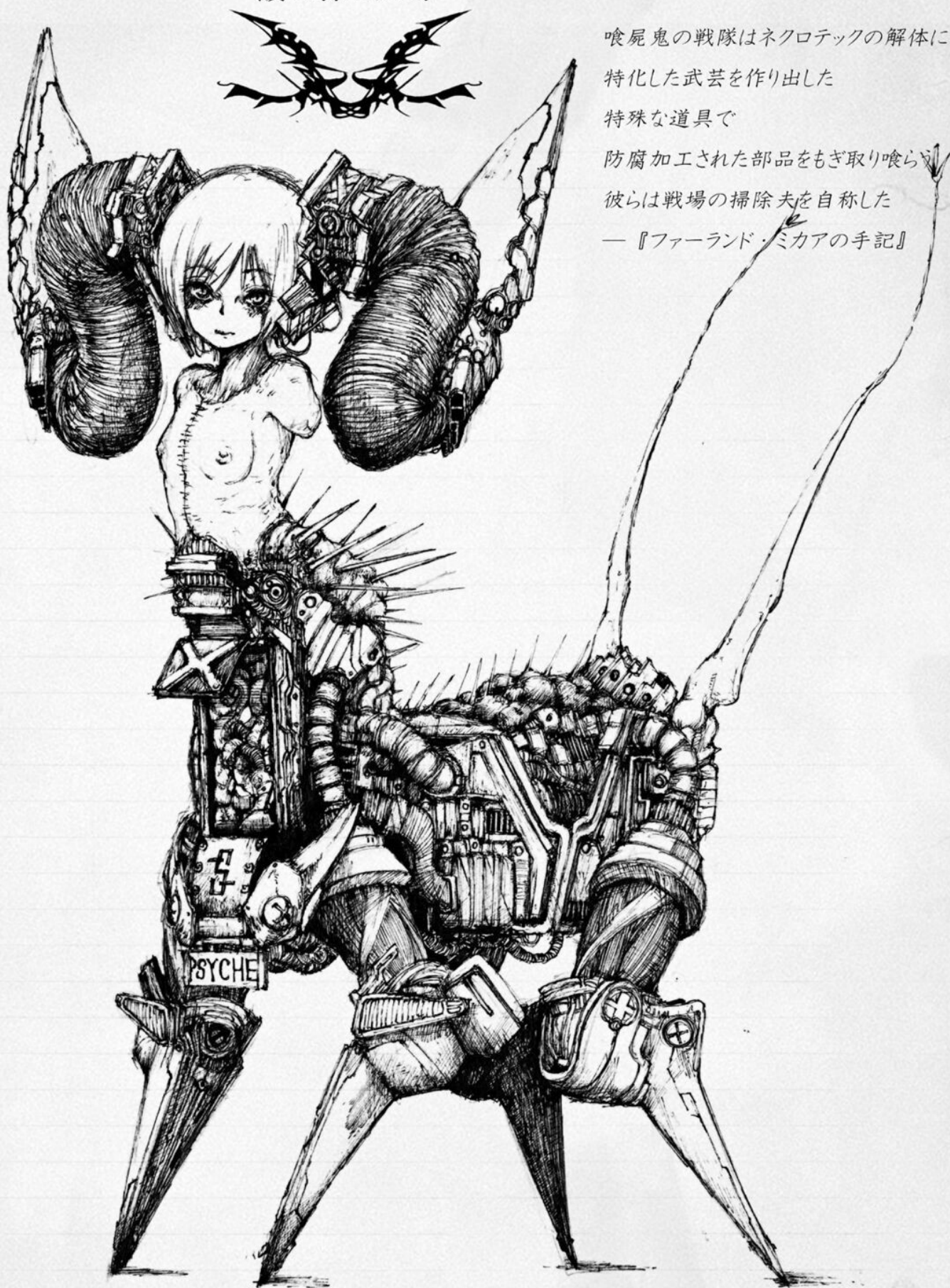


あのお人形さんの威力が
わたしの喚ぶマルグの悪鬼たちにも
引けを取らないことは認めるしかないわ
あの子たちに言わせれば
鼓動なきものとの戦いは嫌いだって
凍らせる血さえ流れぬものには
打ち負かし貪るべき魂すらないからってね
—血浴族の“女王”、アルファルド



Centaur Of Plate-trees

鍍金森の人馬



喰屍鬼の戦隊はネクロテックの解体に

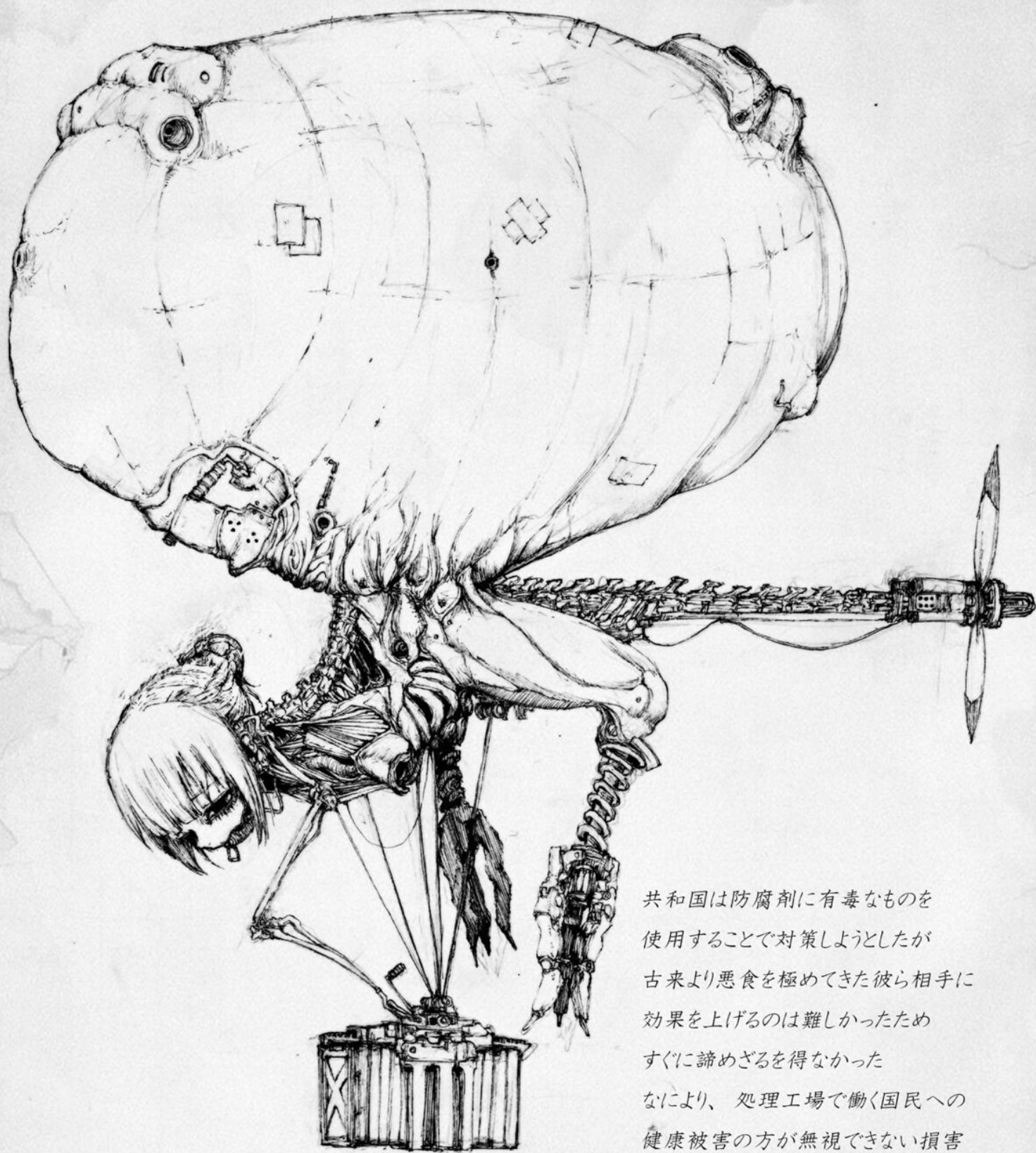
特化した武芸を作り出した

特殊な道具で

防腐加工された部品をもぎ取り喰ら

彼らは戦場の掃除夫を自称した

—『ファーランド・ミカアの手記』

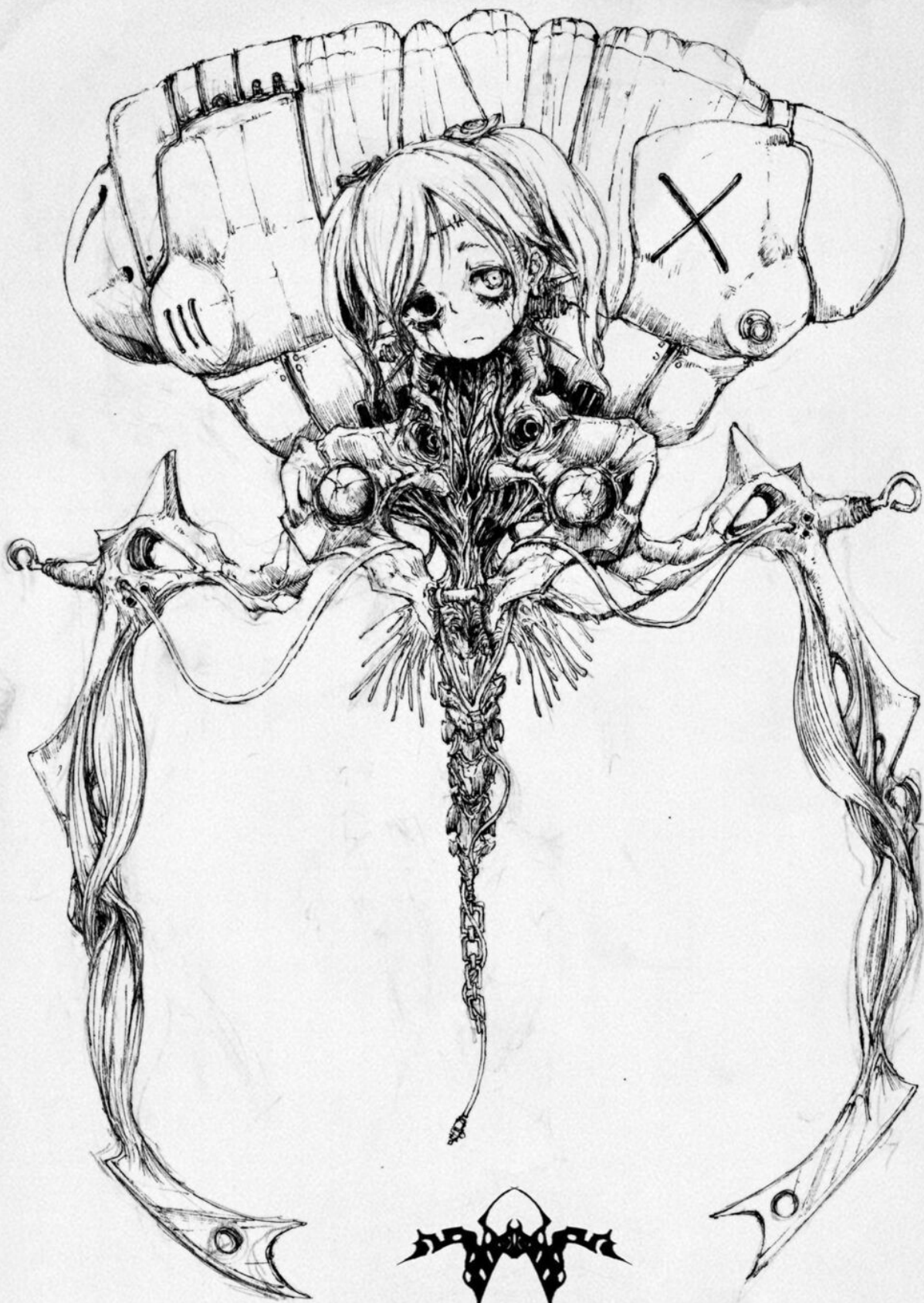


Atrocity Gazer

惨禍を見つめるもの

共和国は防腐剤に有毒なものを
使用することで対策しようとしたが
古来より悪食を極めてきた彼ら相手に
効果を上げるのは難しかったため
すぐに諦めざるを得なかった
なにより、処理工場で働く国民への
健康被害の方が無視できない損害
となってしまったのだ
なお、当時の喰屍鬼の間では
様々な毒抜き調理法が考案されて
いたというが……

— 『ファーランド・ミカアの手記』



Sharpen-eyed Balloon
鋭き眼の気球

「浮ついてない少女」なんていますかね？ —前哨地のネクロテック、ルチオ

ただひとり戻った隊員は、その手に白い薄片を握りしめていた。それが我々が垣間見たあの都、ささくれ立った黴めいた白の外壁の一部であることは明らかだった。門から躍り出たものたちがラシ・メザマレク財団の暴走グロブリンに酷似していたことから、おそらく木星の白薔薇フラクタル以外にも生き延びて散らばったものがあり、それがここで独自の生態系を構築したのだと我々は結論付けた。あの白い錆の都は今も“混沌渦”の中を彷徨っているはずだ。

飛び地探索隊の日誌



Daemon Of Threshold

閾値のデーモン



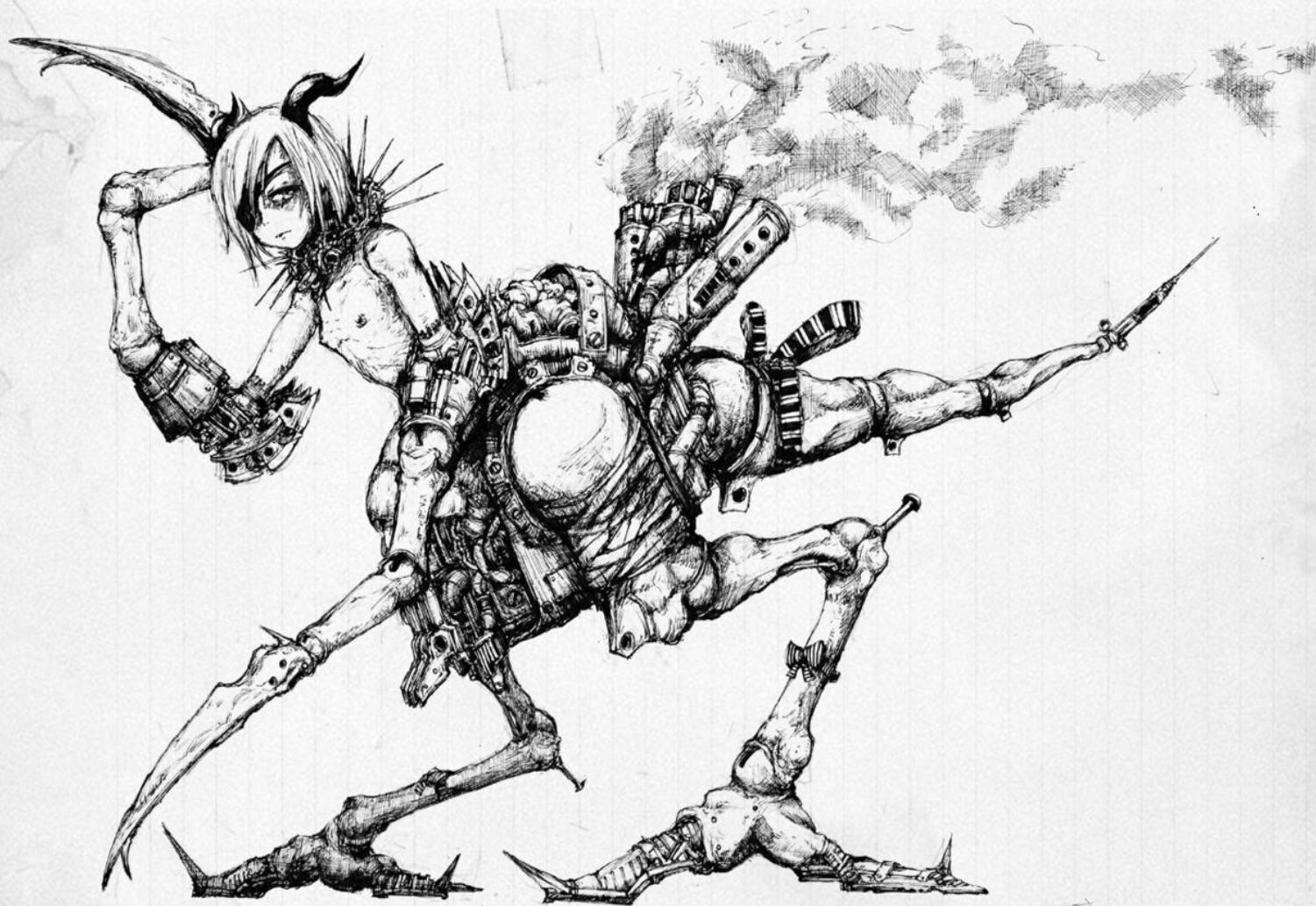
世界気化計画に必要なものが、少女の吐息の最も熱い瞬間であるというのは、あまりにも観念的な話に思えるかもしれない。しかし、確かにあの清冽な感情と劣情の狭間に漏れ出すひと息こそが、グレイトロウルの神話にあるような創世ドラゴンの炎の息に他ならない。私は少女の膚に涙を流すだろう。しかしあのひと息に触れたなら？私は光に還元されるに違いない、そのような救済を私は世界中にもたらしたいのだ、シュルツ研の馬鹿どもには理解すらできないだろうが。

—旧煥 techS 研究員、“大罪者” アクセ・フォーレ『備忘録』



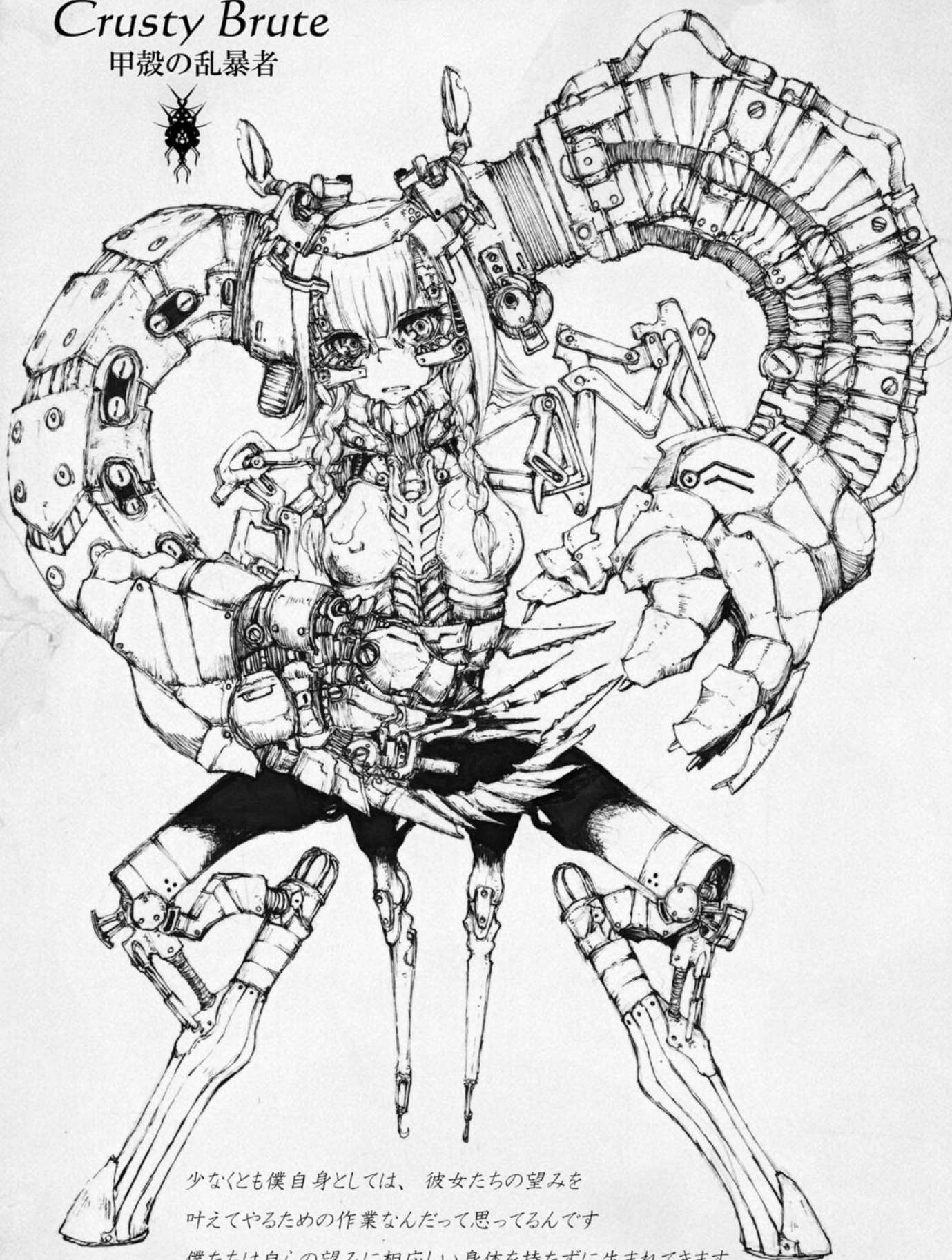
Dragon Of Threshold

閾値のドラゴン



Crusty Brute

甲殻の乱暴者



少なくとも僕自身としては、彼女たちの望みを
叶えてやるための作業なんだって思ってるんです
僕たちは自らの望みに相応しい身体を持たずに生まれてきます
死んだ後の方が最も自分らしいなんてこともきっとよくあるんだと思うのです

—亡命屍術師、クラヴィス・カーロ

Shaky Carrier

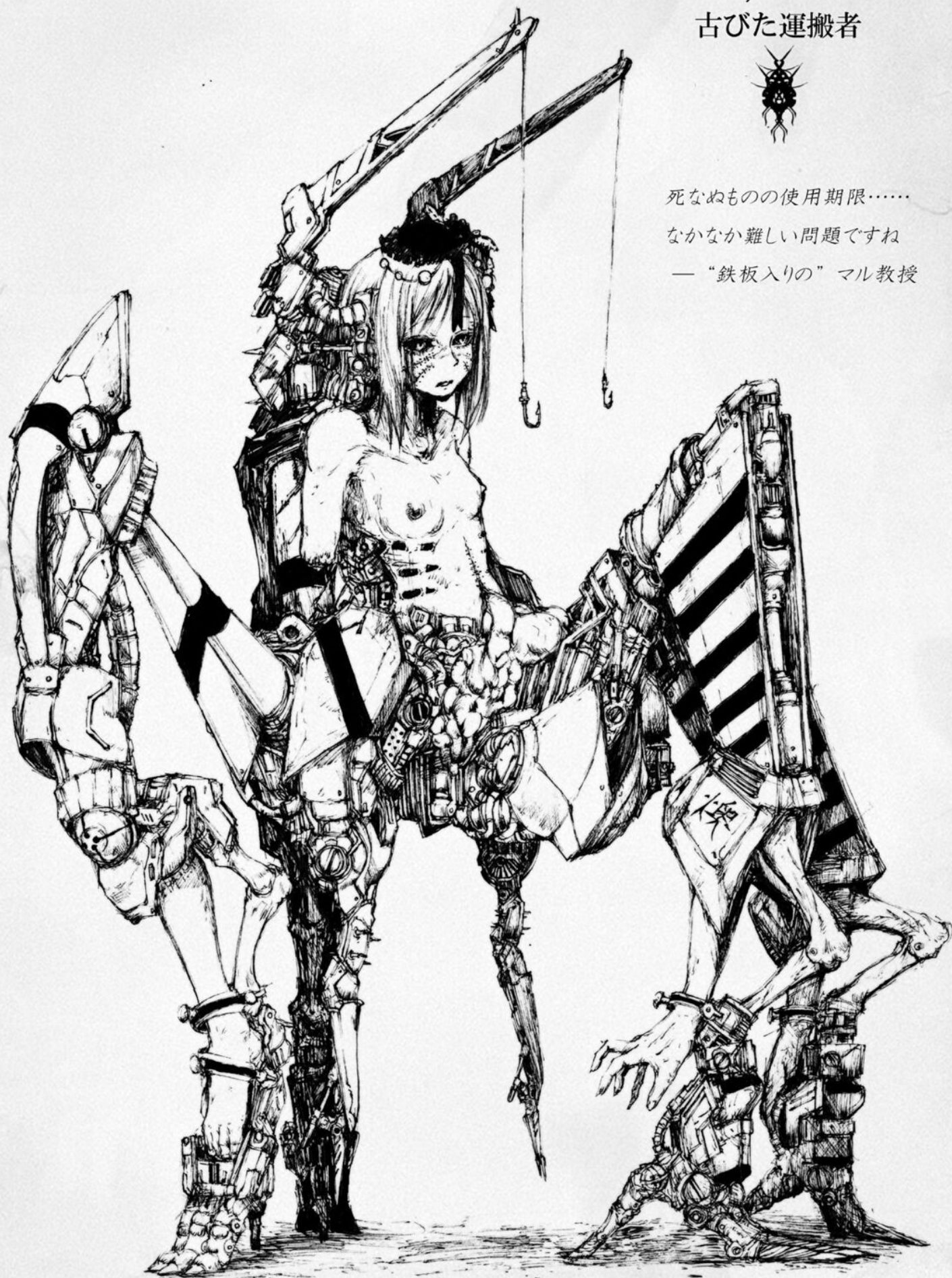
古びた運搬者



死なぬものの使用期限……

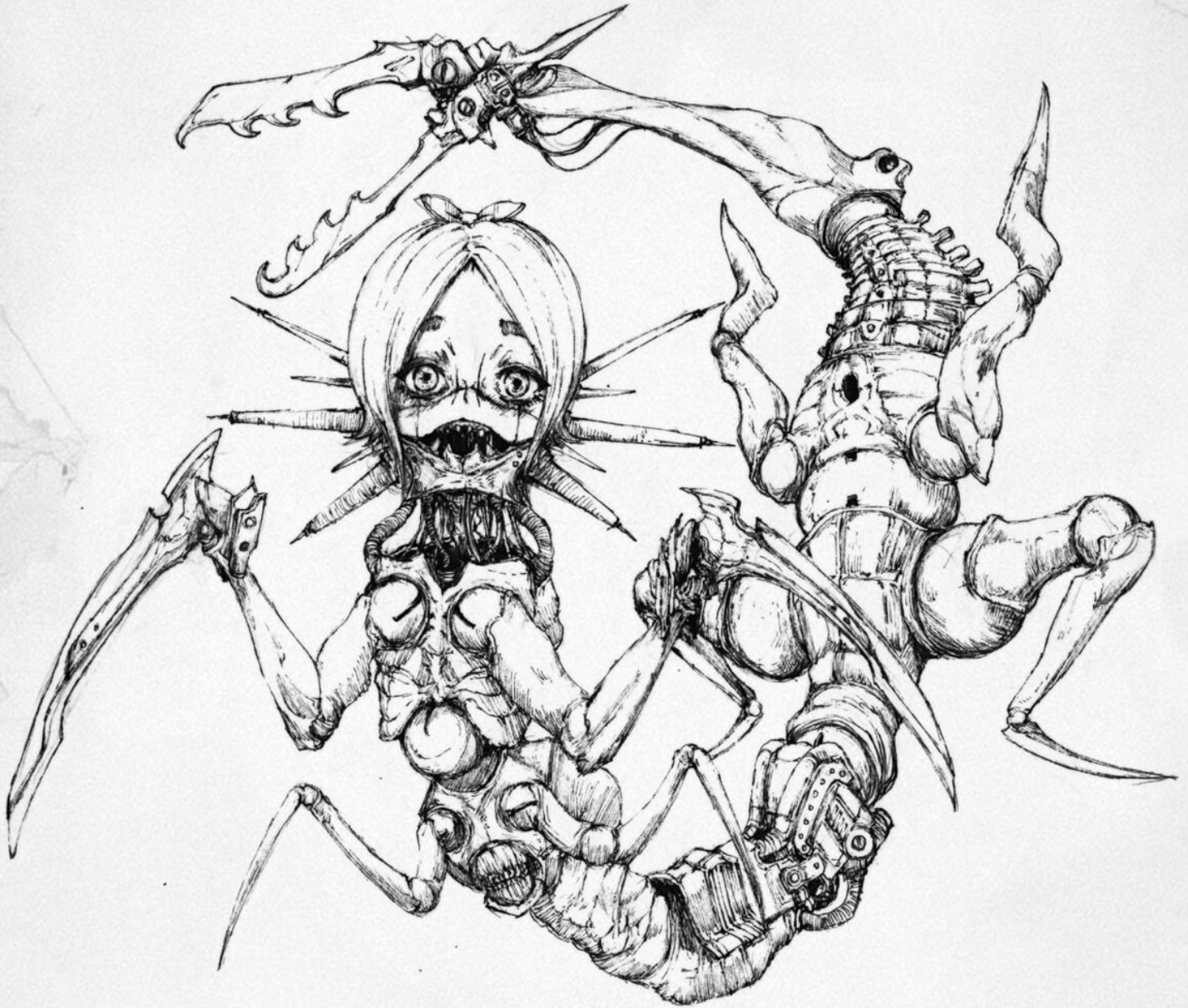
なかなか難しい問題ですね

— “鉄板入りの” マル教授



Manticore Amuser

マンティコアの慰みもの



ひとは混沌すら「その方が便利だから」とポケットに収めてしまった
降霊術とて例外ではない、共和国の連中ときたら我らが芸術の
精髓を掠め取り、小さな箱ひとつに押し込めよった

あやつらは死体を粘度代わりに捏ねて遊んでいるだけだ

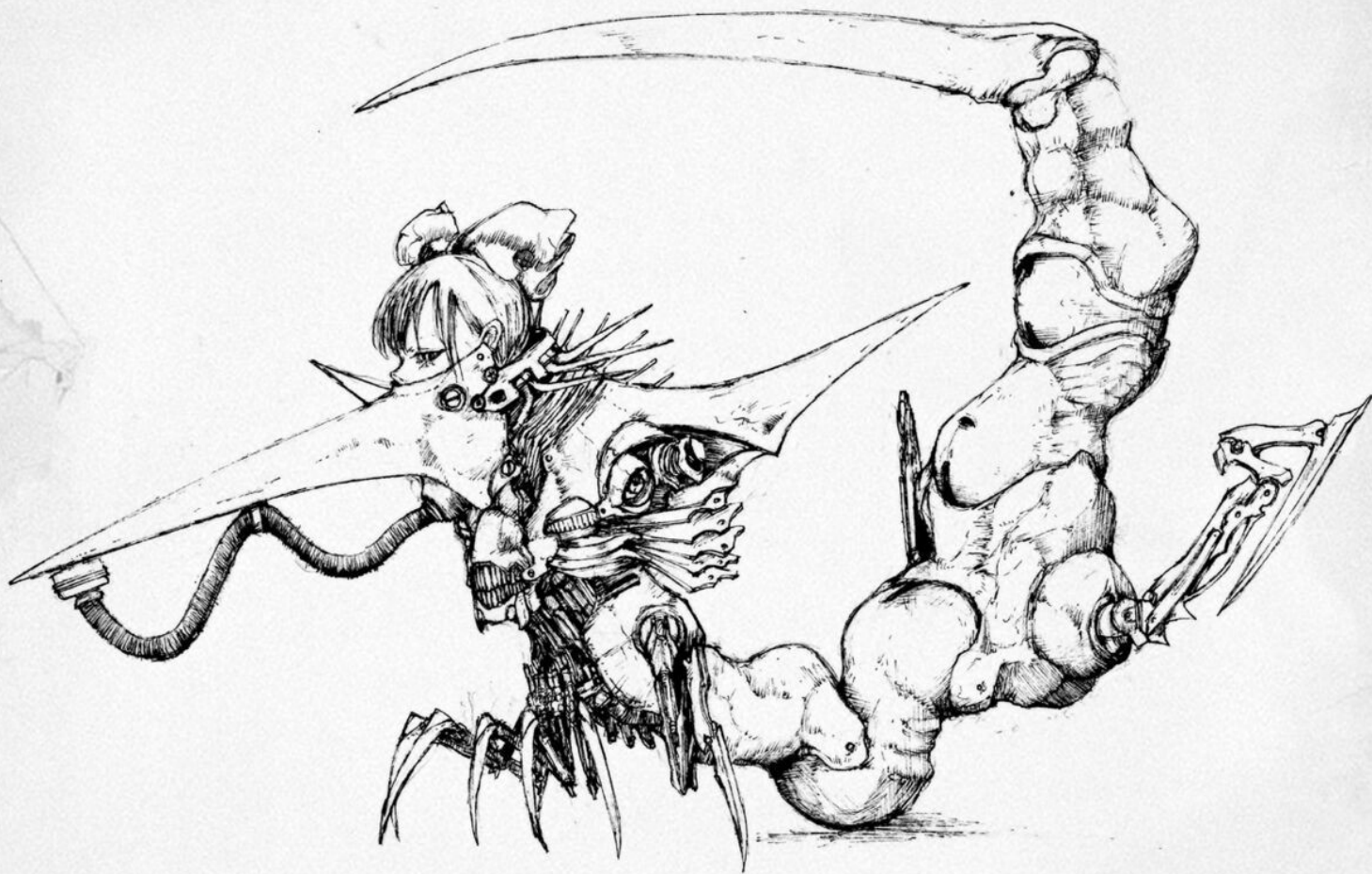
死を敬い恐れ死を知らしめ死を救う使命などまるで分かっちゃおらん

—竜の墓場の貴婦人、“腐れ奔流の”アビゲイル



Immortal Poison

死せざる毒



かつて切手帳で世界を解こうとした若者がいたが
私は手で掴み出す臓腑の内に神意を窺う
ふたりは赤色に注意する、それは春の色
心に物語という毒を注ぎ込む季節の……

ラティウス・ホラ・アキタ『黒い城』



Kidnapper Of Crocodile Street

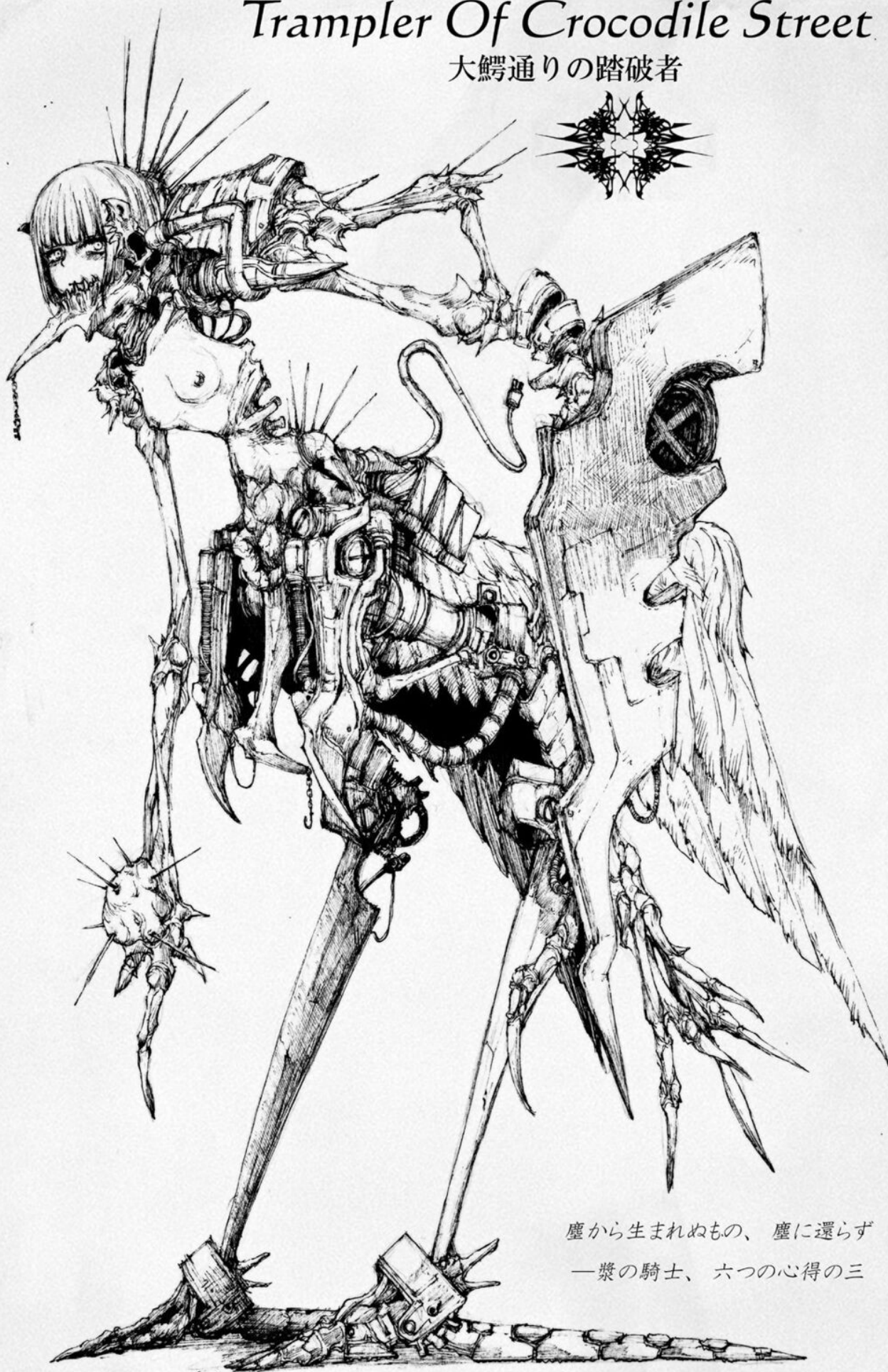
大鰐通りの人攫い



黄昏の夢に結び合わされて
姉妹は一对の翼になった
風を捉えては泣き叫ぶ
目覚めぬことを願った旅路の果てに
目覚めることを切望する
月の子供たちは
笑えない皮肉ばかりを弄ぶのだ
貪食者オールドー『塔都市百景』

Trampler Of Crocodile Street

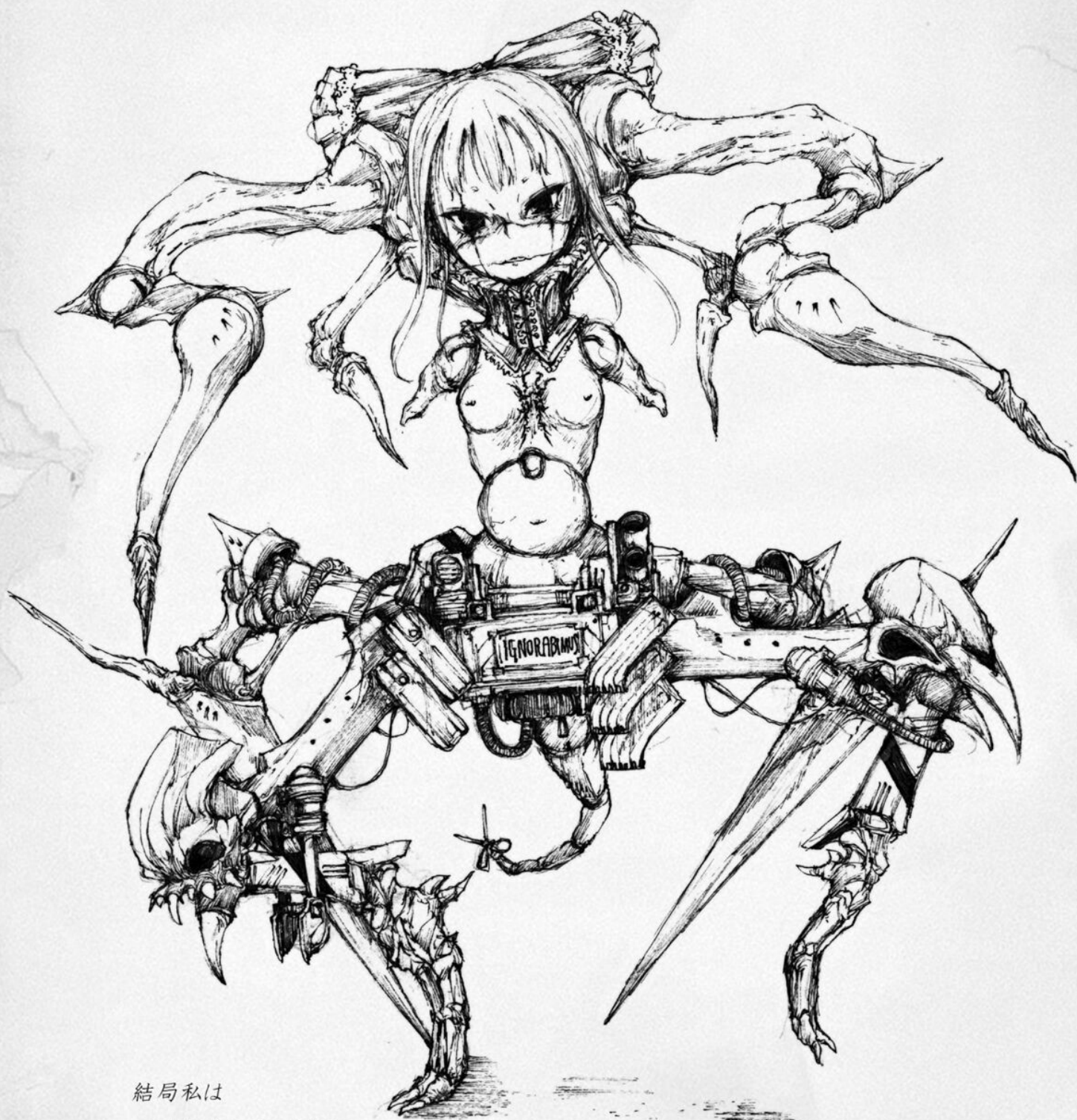
大鰐通りの踏破者



塵から生まれぬもの、塵に還らず
一漿の騎士、六つの心得の三

Waddling Princess

よた姫様



結局私は

死者特有のぎこちなさが

好きなだけなのさきっと

—マスターネクロテック、カッシュス・デラモルテ

おわりに

◎どこにどう収めようにも

こっちに入れば足が出て

あっちに入れば頭が出て

そっちに入れたら

チャックに皮が挟まった

そんな難儀な嗜好をしまう

特製の箱は自分で作るしかない

それだけの本でした

素材の少女たちを敢えて死体と断じる

ために「ネクロテック」の名を冠し

ました、正直いまだに決め兼ねては

いるのです

なんらかの熱を発しているイメージが

あって、それがまったくゾンビ的だと

は言い難くさせる

もちろん、死体に微かな温もりがあっても

良いのです。むしろ、そのぎりぎりの

生命の残り香だけが漂い続けてこそその

屍少女なのかも知れません

少女である限り他者の内面に

邪な熱を発生させるエンジンなのであり

交霊術（ネクロマンティック）ならぬ

死体機械（ネクロテック）は

男（マン）を排除してその駆動を

永久に停めたがっている……すいません

実は今思いついたこと書いてるだけです

次があったらまたお会いしましょう

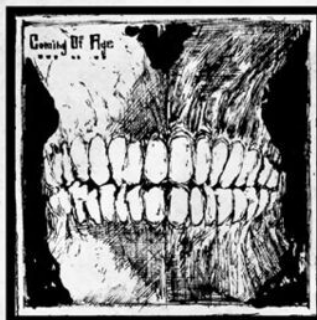
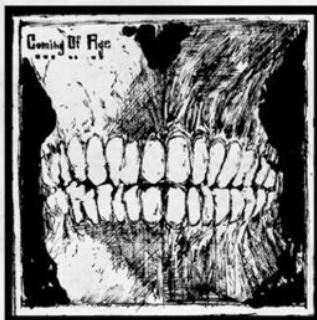
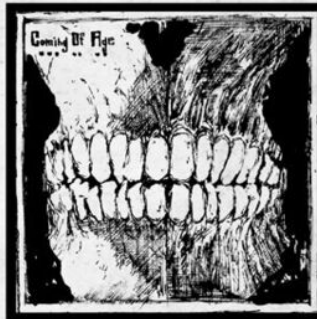


奥付 『ネクロテック・エンジニアリング』 2012年5月5日 (COMITIA100)

著者：メグリム・ハルヨ（朽 techS） 連絡先：haruyoi@hotmail.co.jp

印刷：ねこのしっぽ（有）





Techkeeper licenced NM-ID-12-T-C4



33276609162384

発行：ゴールデン・ゴブリンプレス

定価：本体 *** 円 + 税